

CHILDREN'S VOICES

日本での学びを子どもたちに還元
～カリエの来日と帰国後～

写真：路上の子どもに聞き取り調査を行う
協同組合カリエのメンバー

カリエの来日、ついに実現！

10月16日～21日、フィリピンの元路上の若者による協同組合カリエの3名と、カリエの活動・研修担当者2名が来日しました！今回の来日は、6～8月に実施したクラウドファンディングに多くの方が協力してくださったおかげで実現しました。応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました！

Day 1: 初めての出国

初めて取得したパスポートを持って、初めて訪れたマニラ空港、初めての飛行機…。初めて尽くしでドキドキワクワクのカリエメンバー。出迎えたアイキャンスタッフと昼食後、名古屋の日本事務局へ。滞在中の予定や日本円について確認しました。



Day 2: コープあいちでの研修



—日本の協同組合で学ぶ—

未投函ハガキ収集活動等で長年アイキャンを応援してくださっているコープあいち様の研修に参加しました。まず午前中は、コープの店舗で実際に買い物体験。商品の数や品質、パンの陳列方法等を学び、パン職人の方からもお話を伺いました。午後からは、コープあいち本部を訪問。組織の始まりや事業内容を学んだ後、商品検査センターにて、安心・安全な商品を確実に組合員にお届けするための取り組みについて学びました。

*コープあいち様は、今回のカリエ来日にもご協賛くださいました。



コープあいち職員 見山様より

「協同組合」という共通の理念で思いをともにするカリエと一緒に何かしたいという長年の願いが実現し、本当に嬉しいです。自分たちの暮らしを自分たちの手で良くしていこうという思いが原点となっているのは、カリエも私たちも同じです。一人では解決できなくても、同じ思いを持った仲間が集まれば変えていけることも多いはず。大変なことは沢山あるけど、笑顔でこれからも一緒に乗り越えていきましょう。

Day 3 AM: ^{たるい}グルマンヴィタル垂井本店での研修

—人気店でパン作りや経営理念を学ぶ—

岐阜県で大人気のパン屋、グルマンヴィタル垂井本店様の研修に参加しました。店舗からは見えない工場内で、生地をこねる機械や醗酵室、オープンも特別に見せていただきました。その後、鈴木社長から組織の運営や理念、ビジョンを持つことの大切さについてお話を聞きました。



グルマンマルセ 鈴木社長より

カリエは素晴らしい理念を持っているし、単に利益のためにやっているわけではないので、きっと成功すると思います。そのためにも、沢山の課題を整理し、自分たちの力でできることとできないことを明確にして、適切な人に協力を得ていくことが必要です。研修やレシピ等、私たちにできることがあれば何でも協力します。

Day 3 PM: Snowcafeでの研修

－「師匠」からの再指導と実践練習－

カリエにシフォンケーキ作りを指導して下さった福井県の専門店Snowcafe様を訪問しました。約2年ぶりに再会したシェフから、難しい抹茶味のシフォンケーキ作りのコツを改めて教わり、その後メンバーが一人一つずつ作りました。「師匠」を前に緊張気味でしたが、三つとも綺麗に焼き上がり、成長した姿を見ていただくことができました。



Snowcafe 渡辺シェフより

カリエとの出会いがなければできなかった経験を沢山させてもらっています。大きなシフォンケーキをあれだけうまく焼ける人は、日本にもそうはいません。カリエには、自分たちの腕に自信を持ってほしいと思います。Snowcafeを応援して下さる方への恩返しではなくカリエへの「恩送り」で、今後も私たちにできることを考えていきます。

Day 4: 名古屋での交流会

－努力と感謝を直接伝える交流会－

名古屋市内で交流会を行い、53名が参加しました。過去の路上生活やカリエの活動などについてメンバーが順にお話した後、小グループに分かれて交流。参加者からは「時々涙ぐみながら経験談を話していて、カリエのこれまでの努力に感銘を受けた」などの声がありました。参加者同士で談笑する姿も見られ「他の参加者がどんなきっかけや想いで応援しているのかを聞いて興味深かった」という感想もありました。



参加者アンケートより

- みんな笑顔で優しくて、一緒にいたどの瞬間を切り取ってもとても記憶に残る時間でした。より一層カリエやアイキャンを応援したい、一緒に行動したいと思える交流会でした。
- スタディツアー以来5年ぶりの再会で、成長を感じられました。しっかりと考えられる大人になっていて、たくましく、彼らからかえって勇気をもらいました。

Day 5: 美濃加茂市での出店



－お祭りで日本文化の体験とフィリピン文化の紹介－

岐阜県美濃加茂市で開催された「おん祭MINOKAMO 太田宿中山道まつり」に参加。カリエが日本のお祭りを体験するだけでなく、フィリピン文化を紹介して相互交流をしようと、パロール（フィリピンでクリスマスをお祝いするために作る星形の飾り）作りの体験ブースを出しました。日本人になじみのある折り紙で、日本の子どもたちにパロールの作り方を教えることで、楽しく交流できました。



Day 6: 帰国

いよいよ最終日。「帰りたくない」と度々口にするメンバーとともに、アイキャンが毎月ボランティアさんたちと街頭募金をしている場所を訪れると、感激した様子でした。その後空港で見送りのスタッフと別れる際、日本人のように何度もおじぎをし、見えなくなるまで手を振ってくれたカリエ。今回の来日への感謝の気持ちが強く伝わってきました。



来日を終えて



リカ

路上の子どもであった私の人生を変えるために応援してくれた皆さんに、直接感謝を伝えることは私の夢でした。私たちが日本で学び、経験したことの全てを、路上の子どもたちに還元できるよう活動していきます。どうか、これからも期待し、応援してください！！



ジンボイ

日本で過ごす一瞬一瞬がかけがえない時間でした！「日本に行く」という幼い頃からの夢は、いつも私を前向きにし、力を与えてくれました。その夢を叶えてくださった皆さんに心から感謝しています。社会に変化を生み出すことで、しっかりお返しをしてきたいと思います。



エンジェル

私たちのために、時間や力を尽くしてくださったことに感謝しています。日本で皆さんにお会いして、私たちが受け入れられ、愛され、支えられていることを実感しました。皆さんが私たちの活動を引き続き応援して下さることを願っています。またすぐにお会いできますように！



ジョネル

今回残念ながら日本に行くことができませんでしたが、名古屋での交流会にオンラインで参加し、沢山の方が私たちと会うために集まっていることに感激しました。また、「次はぜひ来日できるように」というメッセージも多く頂き、心に沁みました。いつか日本でお会いできることを願っています。



フィリピン事務所
職員 マデット

我が子のような存在であるカリエと日本に行くことができ、とても感慨深く感じます。出会った頃は身なりも汚く、不衛生な環境で暮らしていた彼ら。想像を絶する困難を何度も乗り越え、ここまで成長したことを誇りに思います。今日まで応援して下さった皆さまには心から感謝申し上げます。



子どもの家施設長
(カリエ研修担当)
マリテス

日本では本当に沢山の素晴らしい経験をしました。路上の子どもたちやカリエが「夢」をもったとき、私たちは全力で応援しますが、私たちの力で行えることは限られています。そこに皆さんの力が加わるからこそ、実現することができます。今回力をくださったお一人お一人に、感謝いたします。

帰国後の取り組み

日本での学びをフィリピンで還元するため、カリエの組織強化と活動強化の両面で取り組んでいます。



課題調査

夜回りや日中の路上訪問での聞き取り



関係構築

路上の子どもの声に耳を傾け、信頼関係をつくる



組織強化

課題分析のためのワークショップ



技術向上と販売促進

シフォンケーキ製作訓練やパン製品の包装の検討



壊れてしまった「心」を取り戻せるように



「子どもの家」施設長
マリテス

2002年～2015年に
アイキャン勤務。栄養士。
2021年より現職。

学校で良い成績をとった6名の子どものご褒美に、アイスクリームを食べに行ったときのことで。店の外には、物乞いをしている男の子がいました。アイスを買って外に出ると、ジョン君（仮名）だけアイスを持っていません。「もう食べちゃったの？」と聞くと、**物乞いをしていた子に、自分が口をつける前のアイスをあげたのだそうです。**

物乞いの子どもが他の人からもらえるのは、誰かが使った後のものや余りもの。自分専用のもの、ましてや新品のものを手に入れる機会はまずありません。自分も路上の子どもだったジョン君は「**だから自分の新しいアイスを彼にあげたかった**」と言いました。そして、ジョン君の気持ちを知った他の5人の子どもたちは、自分たちのアイスをジョン君と上手に分け合って食べていました。



帰宅後も勉強に励む子どもたち

私は、他者を思いやる温かい心を持つ「子どもの家」の子どもたちを誇りに思いますが、しかし、今はこんなに優しいジョン君でさえ、「子どもの家」に来てすぐの頃は人を恐れたり疑ったりする心が強かったのです。暴力を振るわれることを警戒して夜眠ることができず「アイキャンが自分を助けてくれるからには何か見返りを求められるのだろう」と思っていました。私はそんな彼に「**見返りなんていらないよ。ただあなたが幸せになってくれたらそれでいい。そんな思いで一緒にいるんだよ**」と伝え続けました。



安心した表情で眠る子ども

路上で暮らしている子どもたちも、本来は温かく、優しい心を持った子どもたちであるはずですが、でも、**日々極限の状態に置かれて嫌な言葉を浴びせられ続けると、子どもの心は壊れてしまいます。**私は、一人でも多くの子どもが安心・安全な環境で暮らせるようになることを願っています。

マンスリーパートナーを募集しています

マンスリーパートナーは、月々1,000円からの一定額をご寄付いただき、アイキャンの活動および運営を応援していただく制度です。継続的なご寄付は、活動の持続・発展において大きな力となります。ぜひマンスリーパートナーになって、私たちと「ともに」活動してください！

*アイキャンは、名古屋市の認定を受けた「認定NPO法人」です。アイキャン発行の寄付金領収書を用いて確定申告を行うと、税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。



↑詳しくはこちら

マンスリーパートナーの声：中野雅俊さん

カリエのメンバーに初めて会ったのは2016年のスタディツアーでした。当時、彼らは10代が多く、アイキャンのサポートを受けながら路上教育やカフェ運営をしている印象でした。現在彼らは20代となり、新しい地域で路上教育を主体的に行なっていると聞いて驚きました。

今回の来日で再会し、カリエと話をしているとき「なぜサポートしてくれるの？」と聞かれました。それに対して何か答えたのですが、その答えは自分の中でしっくり来ませんでした。数日考えていたら、初めは「かっこいい事をしているから応援したいな」と思い毎月寄付を始めたのだと思い出しました。その後も、アイキャンの会報等で彼らの活動・挑戦を知って「よし、私も挑戦してみよう」と勇気をもらっていることに気づいたのです。今回の再会でそれを再認識できました。カリエの皆に「ありがとう」と伝えたいです。



自分事として地域の課題に取り組む人を増やす



事務局長 福田浩之
2013年入職。社会福祉士。フィリピンに10年間駐在後、2023年より現職。

アイキャンは、赤い羽根福祉基金の助成により、外国籍住民の割合が1割を超える岐阜県美濃加茂市において、誰もが住みやすく活躍できる地域づくりに取り組んでいます。どこの地域にも多岐に渡る課題がありますが、それらの課題を何となく知っていても自分とは無関係な事と思ってしまうたり、それらの課題を知らないがために、**地域住民の「できること」が発揮されず、課題が放置されている状況が「問題」**だと考えています。

ここでは、自分事として課題に取り組む人を増やすための活動の一例を紹介します。

私は、昨年度から始めた外国にルーツをもつ住民の生活相談対応の中で「子どもが学習に困難を抱えている」という話を度々耳にしてきました。この問題に対し、できることはないかと考えていたところ、「KDC響き合い（以後、KDC）」という認可外保育所と出会いました。KDCは、学童保育のような場であり、日本語能力が不十分で学校の授業についていくことが難しい、フィリピンにルーツを子どもに対し、学習支援をしています。子どもたちと保護者にとって、KDCは**地域になくてはならない「社会資源」**になっています。

ところが、KDCの代表から「団体を継続するのが財政的に難しい」と聞きました。アイキャンがKDCに資金的な支援をすることはできませんが、**「地域住民の力を引き出し、その力をつなぐことで課題を解決する」という、アイキャンのフィリピンでの活動経験（＝強み）を活かすことができる**と考えました。

そこで、KDCに通う子どもやその保護者と話し合いました。まずは、「私にとってのKDC」について想いを共有し合い、その後財政難について保護者に伝えました。保護者たちはしばらく沈黙していましたが、**「KDCを守るために、私たちに何ができる？」**という、ある保護者の言葉で、皆の意識が変わりました。それまでは、KDCを「大切な場所」と思っていたも、そこに通うだけだった皆が**「大切な場所を守るために、自分たちが動かなければ」と気づいた**のです。そして、外国にルーツを持つ子どもの教育課題を多くの人に伝え、解決に取り組む人を増やすためのシンポジウム開催が決まりました。

シンポジウム当日。美濃加茂市長をはじめ、約50名の美濃加茂市職員、学校関係者、市民を前に、緊張しながらも日本語と英語を使いながら保護者自身が司会を担い、子どもたちは日本の学校での経験やKDCに通い始めてからの変化を語りました。子どもたちの話を聞いた参加者からは**「子どもたちの語りに“力”を感じた。この課題解決を応援したい」**などの感想が聞かれました。**子どもたちや保護者自身が「声」を上げて、自分の「できること」を発揮したことで、聴衆の心を動かすことができた**のです。

地域の様々な課題に対して、アイキャンが直接関わるのには限界があります。そうではなく、地域の中で「その問題を解決したい」という共通の想いを持つ人を増やし、その行動を後押しして、**自分事として課題解決に取り組む人を増やしていくことが大切**だと考えます。今後も、アイキャンの「強み」を活かして活動していきます。



下校後に「KDC響き合い」で過ごす子どもたち



KDCの保護者とのミーティングの様子



子どもたちが自分の言葉で経験を語ったシンポジウムの様子

キャリア支援を開始 ～ 外国にルーツを持つ若者にもっと多様な選択肢を ～



名古屋みらいロータリークラブ様よりパソコンのご寄付を頂きました。このパソコンは、美濃加茂市周辺で生活する、外国にルーツをもつ若者のキャリア支援のために活用します。

日本語能力が十分でない若者は日本での将来を描きづらく「夢は特にない。派遣社員として働くから」と語る人もいます。今後、そのような若者の将来の選択肢を増やすため、自身も努力して日本語を学び、現在はITエンジニアとして活躍するフィリピン出身の方と一緒に、キャリア教育を実施していきます。

3家族貸切スタディツアーを開催



日本事務局/岐阜
吉田文
2009年入職。
教員免許保持。

普段の生活とは異なる環境に身を置いて、日頃出会わない人たちに会うこと。そして対話や、言語以外の方法で交流しながら丁寧に知り合うこと。それは**自分自身の考えの幅を広げたり、想像力や共感力をより豊かにすることにつながる**と思っています。ただ、結婚や出産、育児等、様々なライフステージによって、そうした機会を得ることを諦めざるを得ない方もいます。私自身も、2歳の息子を育てる中でひしひしと感じていました。

そんな中、日頃から未投函ハガキのご寄付やチャリティイベント開催を通してアイキャンを応援してくださっているヨガインストラクターの川井さんと、貸切スタディツアーの開催についてふとお話をしました。「**ぜひ実現したい!**」と仰っていただき、7月、小学生から高校生のお子さんとそのお母さん方による、3家族貸切のツアーが実現しました!

今回はお母さん方が「ヨガ」という共通のご専門をお持ちだったので、通常のツアー内容に加えてヨガを通じた交流も行いました。台風の被災直後で、予定していた遠足には行けなくなってしまいましたが、ヨガやパン作りを急ぎよ取り入れたり、ゆったり目で子どもたちの体調に無理のない時間配分にするなど、**貸切だからその内容**となりました。

「**やってみたい!**」と思った方が、**そのお気持ちを諦めることのないよう、一緒に機会をつくっていきたいです。**お気軽にご相談いただくと幸いです。

参加者の声：川井恵里子さん

スタディツアーへの参加は私の長年の夢で、世界には様々な環境があることを子どもたちにも知ってほしいと思っていました。子どもたちにとって特に印象に残っているのは、「**現地の子たちが優しくしてくれたこと**」。ご飯を一緒に食べたり、フリータイムの交流の中でいつも笑わせようとしてくれる子がいたり、「**美味しい時**」や「**楽しい時**」、言葉は分からなくても同じ気持ちになっているのが伝わって嬉しかったと言います。

ツアー後に子どもたちと「**隣にお腹を空かせている子がいたら、自分のものを分けて、その子が笑ってくれた方が何倍も幸せを感じるね**」と話しました。この気持ちが、理屈ではなく心の感覚として生まれたことが、親としてとても嬉しいです。「**誰かに優しくしたい。**」そんな気持ちが子どもたちに芽生えたことが、何よりもの財産になりました。



路上の子どもたちと参加者



気付いたことを書き出す様子



「子どもの家」の子どもと食事

皆さまのご参加
お待ちしております

フィリピンに行って、見て、触れて、感じる！ 春のスタディツアー参加者大募集！！

【日程】 A日程：2025年3月12日（水）～ 3月16日（日）
B日程：2025年3月19日（水）～ 3月23日（日）

【旅行代金】 98,000円（現地集合・現地解散）

【お勧めポイント】

1. 路上の子どもが多く暮らす地域を訪問し、子どもたちと交流します！
2. 児童養護施設「子どもの家」に宿泊し、フィリピン文化を堪能できます！
3. 元路上の若者の協同組合「カリエ」と交流し、彼らの想いを聞けます！
4. 通訳しますので語学力の心配はいりません。参加資格は「**楽しみたい!**」という気持ちだけ！



チラシはこちら



資料請求はこちら

「**社会**」と「**私**」と「**未来**」を変える5日間。一生モノの経験と、一生モノの思い出を。

*定員12名に達し次第、募集を締め切ります。資料請求、お申し込みはお早めに！

年末年始、お手元にある不要品をお送りください！

●書き損じハガキ等

書き損じてしまった年賀ハガキ、未投函の官製ハガキ等がお手元にありましたら、封筒に入れてアイキャンまでご郵送ください。活動や団体の運営に、大切に役立てさせていただきます。

*この会報をお届けした封筒の下半分を切り取り、ハガキ等送付用の封筒としてご利用いただくこともできます！

○募集しています○

- ・ポスト未投函の官製ハガキ
- ・書き損じハガキ
- ・未使用切手
- ・未使用テレフォンカード
- ・各種商品券

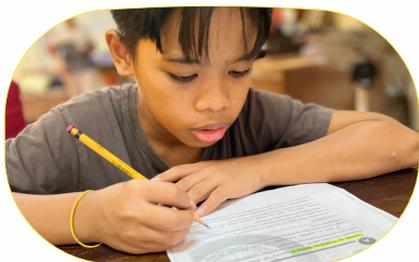
*ハガキや切手は古いものでも構いません。

× 募集していません ×

- ・宛先不明で戻ってきたハガキ
- ・絵葉書
- ・使用済み切手
- ・使用済みテレフォンカード

例えばこんなふうに役立ちます！

ハガキ1枚は、子どもたちが勉強するためのノート1冊になります。



ハガキ50枚は、栄養改善のためのご飯、30食分になります。



ハガキ600枚は、児童養護施設の子ども1人の通学費1年分になります。



●古本等



買取対象品についてはこちら



お申込みはこちら

ブックオフコーポレーションとの連携により、古本等の買い取り額が、アイキャンの活動やその運営に役立てられます。年末年始の大掃除で見つかった不要品がありましたら、ぜひお申し込みください！

＜お申し込みからご寄付までの流れ＞

①応援したいプログラムを選ぶ

左記二次元バーコードから、アイキャンのプログラムを応援するページを開きます。そこからお申し込みください。

*お電話(052-253-7299)でもお申し込みを承ります。



②不要になった物品を梱包する

物品をダンボールに梱包してください。ご指定の日時に配送ドライバーが送料無料でご集荷に伺います。



③物品の買い取り金額がアイキャンへの寄付に！

ブックオフによる買い取り金額が、アイキャンに振り込まれます。



認定NPO法人アイキャン (ICAN)

【名古屋事務局】

〒461-0002 愛知県名古屋市東区代官町39-18

日本陶磁器センタービル5F 中部リサイクル運動市民の会内

【岐阜出張所】

〒503-2406 岐阜県揖斐郡池田町宮地930 土川商店内

【TEL&FAX】 052-253-7299 (休業日：日・月・祝)

【E-mail】 info@ican.or.jp

ホームページ



Instagram



Facebook

